

## 第2回 福島・国際研究産業都市構想研究会 議事要旨

日時:平成26年2月21日(月) 10:30~12:30

場所:福島復興局7階会議室

### 出席者

赤羽委員、内堀委員、上遠野委員代理、渡辺委員、菅野委員、松本委員、桜井委員、小沢委員、角山委員、浅間委員、森山委員、山名委員、石崎委員、伊藤委員、高橋委員、森委員代理、佐々木委員、守本委員、野田委員、徳増委員、熊谷委員

### 議題

1. 廃炉研究開発拠点及び関連する産学連携拠点のあり方について
  - ① JAEA 森山委員によるプレゼンテーション
  - ② IRID 山名委員によるプレゼンテーション
  - ③ 東京電力株式会社福島復興本社 石崎委員によるプレゼンテーション
  - ④ 双葉地方町村会 渡辺委員によるプレゼンテーション
2. 自由討議
3. 次回のスケジュール

### 議事概要

- ・ 産学連携について、産業側の要望をビジネスにつなげるためのコーディネーターの養成と、ネットワークの構築が必要。
- ・ コーディネーターを養成し、研究・開発事業と地域産業に落とし込むことが必要。地元のポテンシャルを高めて生活再建に結びけるための構想であることが理解されないと住民はついてこない。
- ・ ネットワークには2種類あり、堅牢なデータセンターなどを含む情報ネットワークと、高速交通網などの地理的ネットワークの双方が必要。

- ・ 長期間運用可能な拠点にするためには、外部から人が集まるような仕組みが必要。そのためにはここでしかできない研究を行うと同時に、交通・宿泊施設・飲食店などの生活環境作りも必要。
- ・ 世界中の研究者の受け皿とするために、予算措置を含め、この地域を規制緩和のための国家戦略特区構想などを活用して、かならず実施したい。
- ・ 福島には原子力発電だけでなく、地熱発電、水力発電、洋上風力発電などがある。福島全体が再エネルギーの学習フィールドであるから、電気に関する教育や研究の世界的な拠点となるべき。
- ・ 研究拠点の概念整理について、いくつかの話进行分类すべき
  - 廃炉タスクに必要な取組における地元の活用
  - 海外との協力の呼び水としての施設整備や研究予算の確保
  - 住民に安全・安心を与える健康管理・環境補修・モニタリングなどの取組
  - 産業の立地